

津
端
亨
編纂

現代短歌分類辭典

新裝判
26卷

現代短歌分類辞典

新装版26卷

通卷184

平成四年十月二十二日発行

定価一六、〇〇〇円

著者発行
兼印刷者

津 端 亨

発行所

現代短歌分類辞典刊行所

代表 津 端 亨

〒345

埼玉県北葛飾郡杉戸町宮前一九六―五

電話(〇四八〇)三八―〇〇四〇番

振替 東京三―九三二―四

(ISBN4-87706-184-3)

目次

目次	歌数	頁数	歌数	頁数	歌数	頁数
そう (僧)	三七	一	そうかん (騒客)	三	二	二
そう (相)	二五	九	そうがく (奏楽)	三	九	二
そう (双)	二三	二	ぞうがめ (象亀)	六	一	二
ぞう (象)	一五	二	そうかん (壯觀)	二	二	二
ぞう (像)	二三	二五	そうかん (創刊)	六	二	二
そうあい (相愛)	三	二	そうかん (総監)	五	七	二
そうあん (草案)	一	二	そうがん (双眼)	三	一	二
そうあん (草庵)	一五	二	ぞうかん (増刊)	五	一	二
そうい (相違)	二	二	ぞうがん (象眼・象嵌)	二	九	二
そうい (僧衣)	二	二	そうがんきよう (双眼鏡)	一	三	二
そういう	二	二	そうがなんれんず (双眼レンズ)	一	一	二
そういん (僧院)	二五	二	そうき (想起)	三	二	二
そういん (校隠)	一	三	そうぎ (爭議)	三	二	二
そううん (層雲)	六	三	そうぎ (喪儀)	四	一	二
そううん (叢雲)	九	三	そうぎ (葬儀)	九	二	二
そううん (早雲)	四	三	そうぎ (宗祇)	一	三	二
そううんきよう (層雲峽)	五	三	ぞうき (雑木)	七	二	二
そううんざん (早雲山)	七	三	ぞうき (臓器)	五	四	二
そううんじ (早雲寺)	一	三	ぞうぎしゃ (葬儀車)	二	二	二
そうえ (草衣)	二	三	ぞうきばやし (雑木林)	一	四	二
ぞうえい (造営)	八	三	ぞうきはら (雑木原)	二	五	二

そうぎひ〔葬儀費〕	一	四	ぞうげのとう〔象牙の塔〕	二	五	そうこまち〔倉庫町〕	一	一
そうぎや〔葬儀屋〕	六	四	そうけん〔双肩〕	四	五	そうこん〔早婚〕	一	一
そうきやく〔双脚〕	五	四	そうけん〔創建〕	一	五	そうこん〔莊嚴〕	一	一
ぞうきやま〔雜木山〕	六	四	そうけん〔想見〕	一	五	ぞうこん〔雜言〕	一	一
そうきゆう〔蒼穹〕	四	四	そうけん〔創見〕	一	五	そうこんいん〔莊嚴院〕	一	一
そうきよ〔壮拳〕	二	四	そうげん〔壯言〕	一	五	そうさうと〔さうさうと〕	四	一
そうぎよ〔草魚〕	一	四	そうげん〔草原〕	五	五	そうさ〔操作〕	一	一
そうきよう〔双頬〕	四	四	そうげんちたい〔草原地帯〕	四	四	そうさい〔相殺〕	一	一
そうぎよう〔早晚〕	二	四	そうこ〔倉庫〕	一	五	そうさい〔総裁〕	一	一
そうぎよう〔操業〕	一	四	そうご〔壯語〕	一	五	そうさい〔惣菜〕	二	一
ぞうきよう〔増強〕	一	四	そうこう〔壮行〕	三	五	そうさく〔搜索〕	四	一
そうきん〔送金〕	二	四	そうこう〔走行〕	一	五	そうさく〔創作〕	二	一
ぞうきん〔雜巾〕	一	四	そうこう〔草稿〕	六	五	そうさくき〔搜索機〕	一	一
そうく〔瘦軀〕	二	四	そうこう〔装甲〕	一	五	そうさくごじゅうかん〔創作五〇卷〕	二	一
そうぐ〔葬具〕	二	四	そうこう〔艙口〕	三	五	そうさくしょうへい〔搜索小兵〕	一	一
そうぐ〔装具〕	四	四	そうこう〔桑港〕	八	五	そうさくたい〔搜索隊〕	一	一
そうぐ〔雜具〕	二	四	そうこう〔蒼惶〕	一	五	そうさせん〔搜索船〕	一	一
そうくう〔蒼空〕	二	四	そうこう〔相好〕	三	五	そうさせん〔搜索線〕	一	一
そうぐう〔遭遇〕	一	五	そうこう〔綜合〕	一	五	そうさたい〔搜索隊〕	一	一
そうけ〔宗家〕	二	五	そうこうかい〔壮行会〕	一	五	そうさつ〔相殺〕	一	一
そうけ〔僧家〕	一	五	そうこうげき〔総攻撃〕	三	五	ぞうさつ〔増刷〕	一	一
ぞうげ〔象牙〕	七	五	そうこうじどうしゃ〔装甲自動車〕	三	五	ぞうさん〔増産〕	一	一
ぞうけい〔造形〕	二	五	そうこうしゃ〔装甲車〕	六	五	そうし〔壮士〕	七	一
ぞうげいろ〔象牙色〕	五	五	そうこうれっしゃ〔装甲列車〕	二	五	そうし〔莊士〕	一	一

そうし	〔草紙・双紙〕	二四	三	そうしゅう	〔相州〕	二	九	そうしん	〔瘦身〕	八	五
そうし	〔創始〕	四	七	ぞうしゅう	〔增收〕	二	九	そうしんぐ	〔装身具〕	一	五
そうじ	〔掃除〕	三	七	ぞうじゆつ	〔蒼朮〕	三	九	そうず	〔僧都〕	一三	五
そうしかんば	〔相思樺〕	一	七	そうじゆうかん	〔操縦桿〕	三	九	そうず	〔請ず〕	一	六
そうじじ	〔総持寺〕	六	七	ぞうしゅうわい	〔贈収賄〕	一	九	ぞうすい	〔増水〕	七	六
そうしじゆ	〔相思樹〕	三	七	そうじゆく	〔早熟〕	三	九	ぞうすい	〔雑炊〕	一三	六
そうじしよく	〔総辞職〕	二	七	そうしゆん	〔早春〕	二九	九	ぞうする	〔蔵する〕	一	六
そうじする	〔掃除する〕	二	七	そうしよ	〔草書〕	四	九	そうせい	〔早世〕	一	六
そうしつ	〔喪失〕	七	七	そうしよ	〔叢書〕	四	九	そうせい	〔早生〕	三	六
そうして	〔然して〕	四	七	ぞうしよ	〔蔵書〕	一〇	九	そうせい	〔創世〕	一	六
そうじて	〔總じて〕	一	七	そうじよう	〔爽情〕	三	九	そうせい	〔創世紀〕	二	六
そうじふ	〔掃除婦・掃除夫〕	三	七	そうしよう	〔宗匠〕	二	九	そうせい	〔創世紀〕	三	六
そうししや	〔双柿舎〕	一四	七	そうじよう	〔僧正〕	一七	九	そうせい	〔蒼生〕	一三	七
そうしや	〔壮者〕	三	七	ぞうじよう	〔層疊〕	一	九	そうせい	〔叢生・簇生〕	五	七
そうししや	〔創始者〕	一	七	そうじよう	〔騷擾〕	五	九	ぞうせい	〔造成〕	九	七
そうしや	〔走者〕	三	七	そうじようじ	〔増上寺〕	九	九	ぞうぜい	〔増税〕	二	七
そうしや	〔奏者〕	一	七	そうじようす	〔奏上す〕	一	九	そうせい	〔双生児〕	一	七
そうしや	〔掃射〕	一三	七	そうしよく	〔草食〕	四	九	そうせき	〔僧籍〕	一	八
そうしや	〔操車〕	三	七	そうしよく	〔裝飾〕	七	九	そうせつ	〔創設〕	一	八
そうしやば	〔操車場〕	一六	七	そうしよく	〔僧職〕	一	九	そうせつ	〔総説〕	一	八
そうしゆ	〔双手〕	四	七	そうしよくとう	〔裝飾灯〕	一	九	そうせつ	〔霜雪〕	六	八
そうじゆ	〔双樹〕	一四	七	そうしよくどうぶつ	〔草食動物〕	二	九	ぞうせつ	〔増設〕	二	八
ぞうしゆ	〔造酒〕	五	九	そうしれいかん	〔總司令官〕	二	九	そうぜん	〔窓前〕	一六	八
そうしゆう	〔早秋〕	二	九	そうしん	〔喪心〕	三	九	そうぜん	〔愴然〕	四	八

そうぜん〔蒼然〕	二	六	そうぞく〔相統〕	二	六	そうて〔添うて〕	二	一〇〇
そうぜん〔駭然〕	一九	六	そうぞく〔装束〕	一九	六	そうてい〔装丁・装幀〕	三	一〇〇
ぞうせん〔造船〕	八	六	そうぞくすがた〔装束姿〕	一	六	そうてい〔想定〕	二	一〇〇
ぞうせんこうじょう〔造船工場〕	一	六	そうぞくぜい〔相統税〕	二	六	そうていしよ〔装蹄所〕	一	一〇〇
そうせんきよ〔総選挙〕	五	六	そうそば〔曾祖父〕	六	七	そうてん〔早天〕	三	一〇〇
ぞうせんじよ〔造船所〕	一六	六	そうだ〔そうだ〕	九	七	そうてん〔装填〕	二	一〇〇
ぞうせんじょう〔造船場〕	二	六	そうたい〔早退〕	一	七	そうてん〔蒼天〕	一〇	一〇一
ぞうせんたい〔造船体〕	一	六	そうたい〔相对〕	四	七	そうてん〔操典〕	一	一〇一
ぞうせんたい〔造船台〕	一	六	そうたいてき〔相对的〕	二	七	そうてん〔霜天〕	四	一〇一
そうそう〔草叢〕	六	六	そうたいろん〔相对論〕	一	七	そうてん〔送電〕	三	一〇一
そうそう〔送葬〕	五	六	そうだち〔総立ち〕	一	七	そうてん〔送電線〕	二	一〇一
そうそう〔淙淙〕	九	六	そうだん〔相談〕	一四	七	そうでんとう〔送電塔〕	八	一〇一
そうそう〔層層〕	五	六	ぞうたん〔増反〕	一	六	そうと〔僧徒〕	一	一〇一
そうそう〔蒼蒼〕	四	六	そうだんごと〔相談事〕	一	六	そうとう〔争闘〕	四	一〇一
そうそう〔叢叢〕	一	六	そうだんじよ〔相談所〕	一	六	そうとう〔掃討・掃蕩〕	二	一〇一
そうぞう〔送像〕	一	六	そうち〔草地・くさち〕	四	六	そうどう〔草堂〕	一四	一〇一
そうぞう〔想像〕	二四	六	そうち〔装置〕	一七	九	そうどう〔僧堂〕	一四	一〇一
そうぞう〔創造〕	二〇	六	そうち〔瘦地〕	二	九	そうどう〔駭動〕	三	一〇一
ぞうぞう〔造像〕	一	六	ぞうちく〔増築〕	六	一〇〇	そうどういん〔総動員〕	五	一〇一
そうぞううちゅう〔創造宇宙〕	一	六	そうちよう〔早朝〕	七	一〇〇	そうどういんほう〔総動員法〕	二	一〇一
そうぞうしゅ〔創造主〕	一	六	ぞうちよう〔増長〕	一	一〇〇	そうとうたい〔掃蕩隊〕	一	一〇一
そうそうと〔早早と〕	五	六	ぞうちようてん〔増長天〕	一	一〇〇	そうとうに〔相当に〕	三	一〇一
そうぞうりよく〔創造力〕	一	六	そうづ〔添水〕	一	一〇〇	そうとく〔総督〕	一	一〇一
そうぞく〔僧俗〕	四	六	そうで〔さうで〕	一	一〇〇	そうとくふ〔総督府〕	三	一〇一

目	次						
そうな〔そうな〕	六	二二	ぞうふ〔臍腑〕	八	一二	ぞうむぶ〔総務部〕	一 二五
そうなん〔遭難〕	六	二六	ぞうふく〔僧服〕	二	二三	ぞうめい〔滄溟〕	一 二五
そうなんしゃ〔遭難者〕	二	二六	ぞうふくじ〔崇福寺〕	一	二三	ぞうめい〔聡明〕	二 二五
そうなんひ〔遭難碑〕	二	二六	ぞうぶつしゅ〔造物主〕	二	二三	ぞうめいな〔聡明な〕	一 二五
そうに	一	二六	ぞうへい〔僧兵〕	一	二三	ぞうめん〔素麵〕	九 二五
ぞうに〔雑煮〕	三	二六	ぞうへい〔造幣〕	一	二三	ぞうもう〔草莽〕	七 二五
ぞうにもち〔雑煮餅〕	八	二七	ぞうべつ〔送別〕	四	二三	ぞうもく〔草木・くさき〕	二 二五
そうねん〔壮年〕	六	二七	ぞうべつかい〔送別会〕	二	二三	ぞうもくたい〔草木帯〕	一 二六
そうねん〔想念〕	六	二八	ぞうふれん〔想夫恋〕	一	二三	ぞうもくろく〔総目録〕	一 二六
そうねんき〔壮年期〕	二	二八	ぞうほ〔増補〕	一	二三	ぞうもつ〔雑物〕	一 二六
そうねんしゃ〔壮年者〕	一	二八	ぞうほう〔双方〕	一	二三	ぞうもつ〔臍物〕	三 二六
そうは〔蒼波〕	七	二八	ぞうぼう〔双眸〕	二	二三	ぞうもよう〔総模様〕	一 二六
そうば〔相場〕	三	二九	ぞうぼう〔僧坊〕	八	二三	ぞうもん〔総門〕	八 二六
そうばい〔早梅〕	二	二九	ぞうぼう〔想望〕	一	二三	ぞうもんか〔相聞歌〕	五 二六
ぞうはい〔増配〕	一	二九	ぞうぼう〔蒼茫〕	二	二三	ぞうや〔霜夜・しもよ〕	六 二六
そうはく〔蒼白・あおしろい〕	六	二九	ぞうぼう〔増俸〕	一	二四	ぞうや〔宗谷〕	二 二八
そうばし〔相場師〕	二	二二	ぞうばく〔造木〕	二	二四	ぞうやかいきよう〔宗谷海峡〕	二 二八
そうはつ〔早発〕	一	二二	ぞうま〔相馬〕	二	二四	ぞうやみさき〔宗谷岬〕	一 二八
ぞうはん〔造反〕	二	二二	ぞうまがたけ〔相馬嶽〕	七	二四	ぞうよう〔搔痒〕	一 二八
そうはつちほうしょう〔早発痴呆症〕	一	二二	ぞうまがはら〔相馬ヶ原〕	一	二四	ぞうよう〔霜葉〕	三 二八
そうばらん〔相場欄〕	一	二二	ぞうまだいさく〔相馬大作〕	一	二四	ぞうらん〔騒乱〕	一 二九
そうび〔薔薇〕	二	二二	ぞうまとう〔走馬灯〕	二	二四	ぞうり〔総理〕	五 二九
ぞうひよう〔雑兵〕	二	二三	ぞうまね〔相馬嶺〕	四	二四	ぞうり〔草履〕	二 二九
そうふ〔壮夫〕	二	二三	ぞうみ〔総身〕	二	二四	ぞうりだいじん〔総理大臣〕	七 二三

そうりちよう〔総理庁〕	一	二三	そおす〔ソース〕	二	二七	そく〔則・のり〕	二	二五
そうりつ〔創立〕	四	二三	そおだ〔ソーダ〕	二	二七	そく〔退く〕	六	一五
そうりふ〔総理府〕	一	二三	そおだすい〔ソーダ水〕	三	二七	そぐ〔削ぐ・殺ぐ〕	三	二七
そうりよ〔僧侶〕	一五	二三	そかい〔租界〕	二	二七	ぞくあく〔俗悪〕	二	二七
そうりよう〔爽快〕	六	二三	そかい〔疎開〕	七	二七	ぞくい〔即位〕	三	二七
そうりようじ〔総領事〕	一	二三	そがい〔背向〕	一八	二九	そくえ〔そくへ〕〔退辺〕	六	二七
そうりよくせん〔総力戦〕	二	二三	そがい〔阻害〕	一	二三	そくえ〔触穢〕	一	二七
ぞうりん〔造林〕	〇	二三	そがい〔疎外〕	二	二三	そくえい〔即詠〕	一	二七
そうる〔ソウル〕	五	二三	そかいがくどう〔疎開学童〕	二	二三	そくぎん〔即吟〕	一	二七
そうれい〔壮麗〕	九	二三	そかいしゃ〔疎開者〕	五	二三	ぞくけ〔俗気〕	一	二七
そうれつ〔壮烈〕	三	二四	そかいち〔疎開地〕	九	二三	そくごう〔測溝〕	一	二七
そうれつ〔葬列〕	三	二四	そがきようだい〔曾我兄弟〕	一	二四	そくさい〔息災〕	一	二七
そうろ〔走路〕	四	二五	そかく〔組閣〕	三	二四	そくし〔即死〕	一	二七
そうろう〔蒼浪〕	七	二五	そがのや〔曾我廼家〕	一	二四	ぞくじ〔俗事〕	二	二七
そうろう〔蹠跟〕	九	二五	そがん〔素顔〕	一五	二四	そくじしゃくほう〔即時釈放〕	一	二七
そうろん〔争論〕	三	二五	そがん〔訴願〕	二	二四	そくしつ〔側室〕	一	二七
そうわ〔送話〕	一	二五	そぎたつ〔削ぎ立つ〕	一	二四	そくじつ〔即日〕	一	二七
そうわ〔挿話〕	三	二五	そぎたてり〔削ぎたてり〕	一	二四	そくしゃ〔速射〕	一	二七
そうわ〔総和〕	一	二五	そぎ一つつ〔退きつつ〕	一	二四	そくしゃほう〔速射砲〕	二	二七
ぞうわい〔贈賄〕	一	二五	そぎはがれ〔削ぎ剥がれ〕	一	二四	ぞくしゅう〔俗習〕	一	二七
そえ〔添え・副え〕	一〇	二六	そぎへ〔退方〕	二	二五	ぞくしょ〔俗書〕	一	二七
そえぎ〔添え木〕	二	二六	そぎのぼる	一	二五	ぞくじん〔俗人〕	一	二七
そえる〔添える・副える〕	三	二六	そぎや	八	二五	そくしんじょうぶつ〔即身成佛〕	一	二七
そえん〔疎遠〕	六	二七	ぞく〔俗〕	一	二五	そくす〔即す〕	一	二七

ぞくする〔属する〕	二	一六	ぞくへのきはみ	一	一四	そこい〔底意〕	一	一八
ぞくせ〔俗世〕	一	一六	ぞくへん〔側辺〕	一	一五	そこいじ〔底意地〕	一	一八
ぞくせい〔促成〕	一	一六	ぞくほ〔速歩〕	四	一五	そこいた〔底板〕	一	一八
ぞくせい〔簇生・簇生〕	三	一六	ぞくほう〔速報〕	二	一五	そこいら〔其処いら〕	四	一八
ぞくせき〔即席〕	一	一六	ぞくほう〔側方〕	一	一五	そこう〔素行〕	二	一八
ぞくせきらあめん〔即席ラーメン〕	一	一六	ぞくみよう〔即妙〕	一	一五	そこう〔遡江〕	二	一八
ぞくせき〔足跡〕	二六	一六	ぞくみよう〔俗名〕	二	一五	そこう〔遡行〕	一	一八
ぞくせん〔側線〕	五	一四	ぞくめつ〔族滅〕	一	一五	そこう〔遡航〕	一	一八
ぞくそく〔側側〕	一四	一四	ぞくめん〔側面〕	一五	一五	そこかしこ〔其処彼処〕	一〇	一八
ぞくぞく〔続続〕	一七	一四	ぞくらてす〔ソクラテス〕	六	一五	そこく〔祖国〕	七	一九
ぞくそくと〔促促と〕	一	一四	ぞくりき〔足力〕	二	一六	そこくあい〔祖国愛〕	三	一九
ぞくたつ〔速達〕	六	一四	ぞくりよう〔測量〕	一四	一六	そこくら〔底倉〕	五	一九
ぞくたつびん〔速達便〕	二	一四	ぞくりようぎ〔測量儀〕	一	一六	そこここ〔其処此処〕	七	一九
ぞくてい〔測定〕	四	一四	ぞくりようき〔測量器〕	一	一六	そこごもり〔底ごもり〕	二	一九
ぞくど〔速度〕	六	一四	ぞくりようき〔測量旗〕	一	一六	そこごもる〔底ごもる〕	六	一九
ぞくに〔俗に〕	八	一四	ぞぐわな	一	一六	そこそこ〔そこそこ〕	七	一九
ぞくねつ〔足熱〕	一	一四	ぞぐん〔ソ軍〕	二	一六	そこちから〔底力〕	八	一九
ぞくばく〔束縛〕	二	一四	ぞけい〔素馨〕	九	一六	そこつ〔粗忽〕	一	一九
ぞくばく〔若干・幾許〕	三	一四	ぞげき〔狙撃〕	八	一七	そこつち〔底土〕	五	一九
ぞくはつ〔束髪〕	二	一四	ぞげる〔削げる〕	一	一七	そこで〔其処で〕	二	一九
ぞくび〔素首〕	四	一四	そこ〔底〕	二五	一七	そこなう〔損なう〕	二	一九
ぞぐふ	一	一四	そこ〔其処・其所〕	五	一七	そこなし〔底無し〕	三	一九
ぞくふうぎ〔測風儀〕	一	一四	そこ〔齟齬〕	五	一七	そこぬけ〔底抜け〕	一	一九
ぞくぶつ〔俗物〕	一	一四	そこあげ〔底上げ〕	一	一八	そこはかと〔そこはかと〕	四	一九

そこはかとなし〔そこはかとなし〕	七	一六	そしよく〔粗食〕	四	二三	そそくききゅう〔阻塞気球〕	四	二六
そこばく〔若干〕	七	一九	そしらぬかお〔素知らぬ顔〕	九	二三	そそくごう〔阻塞壕〕	一	二六
そこひ〔底ひ〕	二八	二〇	そしらぬげ〔素知らぬげ〕	一	二三	そそくきと	七	二六
そこひ〔内障〕	四	二六	そしらぬふり〔素知らぬ振り〕	三	二三	そそけだつ	三	二九
そこびえ〔底冷え〕	四	二六	そしり〔誹り・譏り〕	三	二三	そそげーり〔注げり〕	三	二九
そこばかり〔底光り〕	七	二七	そしる〔誹る・譏る〕	三	二四	そそと〔楚楚と・楚々と〕	七	二九
そこら〔其処ら〕	七	二八	そしん〔素心〕	二	二五	そそのかす〔唆す〕	九	二〇
そこらあたり〔そこらあたり〕	三	二九	そすい〔疎水〕	七	二五	そそめく	二	二〇
そこらく〔そこらく〕	一七	二九	そせい〔粗製〕	一	二五	そそりたつ〔聳り立つ〕	二〇	二〇
そこらじゅう〔其処中〕	三	三〇	そせい〔蘇生〕	七	二五	そそりーて〔聳りて〕	六	二〇
そこり〔潮涸〕	二	三〇	そぜい〔租税〕	一	二五	そそる	九	二〇
そざい〔素材〕	五	三〇	そせき〔礎石〕	五	二五	そぞろ〔漫ろ〕	二九	二〇
そざつ〔粗雑〕	二	三〇	そせん〔祖先〕	五	二七	そぞろありき	二	二〇
そし〔阻止〕	二	三〇	そそいーだ〔注いだ〕	三	二八	そぞろあるき〔漫ろ歩き〕	七	二〇
そし〔素子〕	一	三〇	そそー〔粗相〕	一	二八	そぞろく〔漫く〕	二	二〇
そし〔素志〕	一	三〇	そぞう〔粗造〕	一	二八	そぞろごころ〔漫ろ心〕	三	二〇
そじ〔素地〕	三	三〇	そぞう〔塑像〕	一五	二八	そぞろに〔漫ろに〕	二〇	二〇
そしき〔組織〕	五	三二	そそぎ〔注ぎ〕	二五	二八	そだ〔粗朶〕	二九	二〇
そしつ〔素質〕	三	三二	そそぎいる〔注ぎ入る〕	一五	三四	そだい〔粗大〕	一	二〇
そしどう〔祖師堂〕	二	三三	そそぎーし〔注ぎし〕	二	三四	そだち〔育ち〕	三〇	二〇
そしゅう〔蘇州〕	九	三三	そそぎーたる〔注ぎたる〕	一	三四	そだちいる〔育ちいる〕	一	二〇
そしゅうがわ〔蘇州河〕	三	三三	そそぎふる〔注ぎ降る〕	一	三四	そだちゆく〔育ち行く〕	七	二〇
そしゅうじょう〔蘇州城〕	一	三三	そそぎをり〔注ぎをり〕	六	三五	そだつ〔育つ〕	一五	二〇
そしょう〔訴訟〕	二	三三	そそぐ〔注ぐ・灌ぐ〕	五	三五	そだてる〔育てる〕	八	二〇

そち〔措置〕	六	二六二	そつぜん〔卒然〕	二	二六五	そとで〔外出・がいしゅつ〕	七	二五
そちこち〔其方此方〕	二	二六三	そっち〔其方〕	一	二六五	そとば〔卒塔婆〕	三	二六六
ぞっか〔俗化〕	一	二六三	そっちのけ〔其方退け〕	一	二六五	そとばう〔外房〕	三	二六七
ぞっか〔俗家〕	一	二六三	そっちゅう〔卒中〕	一	二六五	そとぼり〔外堀〕	七	二六七
そくき〔速記〕	四	二六三	そっちよく〔率直〕	一	二六五	そとめ〔外目〕	五	二六七
そつきじゆく〔速記塾〕	一	二六三	そつと	一	二六六	そとも〔背面・外面〕	九	二六七
そくきよう〔即興〕	二	二六三	そつとう〔卒倒〕	一	二六六	そとわ〔外輪〕	四	二六九
そつぎよう〔卒業〕	二	二六三	そつぽ〔外っ方〕	一	二六六	そなえ〔供え〕	三	二六九
そつぎようき〔卒業期〕	二	二六三	そで〔袖〕	六	二六六	そなえ〔備え〕	一	二七〇
そつぎようご〔卒業後〕	四	二六三	そでがき〔袖垣〕	三	二六〇	そなえ―て〔備えて〕	七	二七〇
そつぎようしき〔卒業式〕	五	二六三	そでぐち〔袖口〕	一	二六〇	そなえもの〔供物・くもつ〕	一〇	二七〇
そくきようしじん〔即興詩人〕	二	二六三	そでたけ〔袖丈〕	四	二六〇	そなた	五	二七一
そつぎようししょうしよ〔卒業証書〕	二	二六三	そてつ〔蘇鉄〕	八	二六一	そなた〔其方〕	一	二七一
そつぎようせい〔卒業生〕	六	二六三	そてつえん〔蘇鉄園〕	二	二六三	そなれまつ〔磯馴れ松〕	一	二七一
そつぎようせいせき〔卒業成績〕	一	二六四	そでなし〔袖無し〕	一	二六三	そなわる〔備わる・具わる〕	五	二七一
そつぎようろんぶん〔卒業論文〕	一	二六四	そでのうら〔袖の浦〕	一	二六三	そね〔そね〕	五	二七一
そつきん〔側近〕	一	二六四	そでのつゆ〔袖の露〕	二	二六三	そねざき〔曾根崎〕	四	二二三
そつくり	七	二六四	そと〔外〕	九	二六三	そねまし〔嫉まし〕	六	二三三
ぞつくり	三	二六四	そとうば〔蘇東坡〕	一	二六三	そねみ〔嫉み・妬み〕	五	二三三
そつけなく〔素っ氣なく・素っ氣なく〕	三	二六四	そとうみ〔外海〕	六	二六三	そねむ〔嫉む・妬む〕	一	二三三
ぞくこう〔続行〕	一	二六四	そとがはま〔外ヶ濱〕	二	二六五	その〔園・えん〕	五	二三三
そくこうじよ〔測候所〕	八	二六四	そとかべ〔外壁〕	九	二六五	その〔其〕	九	二三三
そつじゆ〔卒寿〕	七	二六五	そとがわ〔外側〕	五	二六五	そのう〔園生〕	九	二三三
そつせん〔率先〕	一	二六五	そどく〔素読〕	二	二六五	そのうえ〔其の上〕	一	二三三

そのうち〔其の内〕	四	三五	そはく〔素白〕	一	一五四	そびよう〔素描〕	八	四〇三
そのかみ〔其の上〕	一六	三五	そばこ〔蕎麦粉〕	七	一五四	そびら〔背〕	一四	四〇三
そのご〔其の後〕	五	三五	そばそばし〔稜稜し〕	一	一五四	そびれる	一	四〇三
そのころ〔其の頃〕	二	三五	そばたちーて〔聳たちて〕	三	一五四	そふ〔祖父・おほちち・ぢい〕	三九	四〇三
そのせつ〔其の節〕	一	三五	そばたつ〔峙つ・聳つ〕	三	一五四	そふ〔粗布〕	一	四〇八
そのた〔其の他〕	一五	三五	そばだつ	一	一五四	そふ〔浴ふ〕	一	四〇八
そのて〔其の手〕	一	三五	そばたてる〔そばたてる〕	二	一五四	そふあー〔ソファー〕	一	四〇八
そのば〔其の場〕	三	三五	そばのき〔蕎麦の木〕	一	一五四	そふく〔粗服〕	一	四〇八
そのひ〔其の日〕	二四	三五	そばはた〔蕎麦畑〕	一七	一五四	そふと〔ソフト〕	二〇	四〇八
そのひと〔其の人〕	一七	三六	そばみち〔岨道〕	三	一五六	そふとくりいむ〔ソフトクリーム〕	一	四〇八
そのへん〔其の辺〕	八	三六	そばや〔蕎麦屋〕	七	一五七	そふとぼうる〔ソフトボール〕	一	四〇八
そのほど〔其の程〕	一	三六	そばゆ〔蕎麦湯〕	一	一五七	そふば〔祖父母〕	一六	四〇八
そのまま〔其の俚〕	四七	三六	そばえたちーたり〔聳えたちたり〕	二	一五七	そぶらの〔ソプラノ〕	五	四〇九
そのみち〔其の道〕	九	三七	そばえたつ〔聳え立つ〕	二	一五七	そぶり〔素振〕	一六	四〇九
そのむかし〔其のむかし〕	一〇〇	三七	そばえーつつ〔聳えつつ〕	四	一五六	そば〔祖母・おおはは・おぼば〕	三七	四〇九
そのもの〔其の物〕	二〇	三七	そばえつと〔ソビエツト〕	三	一五六	そほう〔粗放・疎放〕	三	四〇五
そば〔岨〕	一	二六	そばえつとしようがっこう〔ソビエツト小学〕	一	一五六	そばう〔粗暴〕	三	四〇五
そば〔蕎麦〕	三〇三	二七	校	一	一五六	そほうおきな〔蘇峰おきな〕	一	四〇五
そば〔側傍〕	三七	三五	そばえーて〔聳えて〕	三	一五六	そばく〔素朴〕	四三	四〇五
そばえ〔日照雨〕	四	三三	そひね〔添寝〕	二	一五九	そばくさ〔素朴さ〕	八	四〇六
そばえる〔戯る〕	四	三三	そばやかす〔聳やかす〕	一六	一五九	そばくな〔素朴な〕	二〇	四〇六
そばかす〔蕎麦滓〕	二	三九	そばやく〔聳やく〕	五	一五九	そばそば	五	四〇七
そばがき〔蕎麦掻き〕	五	三九	そびゆ〔聳ゆ〕	二五	一五九	そばち	一	四〇七
そばから〔蕎麦殻〕	五	三九	そびよう〔祖廟〕	二	四〇三	そばつ〔濡つ〕	二四	四〇七

そぼつ	一	四七	そめ〔染め〕	六	四五	そよぐ
そぼつち	一	四七	そめい〔疎明〕	一	四六	計
そばふる〔そば降る〕	三	四七	そめいよしの〔染井吉野〕	七	四六	
そばる〔戯る・たはる〕	六	四八	そめいろ〔染色〕	五	四六	
そばろ	一	四九	そめかえ〔染め変え・染め替〕	二	四七	
そま〔杣〕	七	四九	そめぐ〔騒ぐ〕	二	四七	
そまき〔杣木〕	一	四九	そめだす〔染め出す〕	一	四七	
そまつ〔粗末〕	一	四九	そめーたり〔染めたり〕	二	四七	
そまつな〔粗末な〕	七	四九	そめーたり〔初める〕	一	四七	
そまつに〔粗末に〕	二	四九	そめーつ〔染めつ〕	二	四七	
そまびと〔杣人〕	九	四〇	そめーつつ〔染めつつ〕	一	四七	
そまやま〔杣山〕	三	四〇	そめもの〔染め物〕	一	四七	
そまりーて〔染まりて〕	三	四〇	そめる〔初める〕	四	四七	
そまる〔染まる〕	七	四二	そめん〔粗面〕	四	四七	
そみつ〔疎密・粗密〕	一	四三	ぞも	一〇三	四七	
そみーて〔染みて〕	九	四三	そや〔征矢〕	一五	四二	
そむ〔染む〕	一〇	四四	そや	四	四二	
そむ〔初む〕	三	四七	そや	一	四二	
そむき〔背き〕	一五	四〇	ぞや	六	四二	
そむく〔背く〕	四	四三	そよ	一	四四	
そむく〔叛く〕	四	四四	ぞよ	六	四四	
そむける〔背ける〕	八	四四	そよがす	二七	四四	
そむる〔染むる〕	二	四五	そよかぜ〔微風〕	八一	四五	
そむる	一	四五	そよぎ	五六	四六	

出家して仏門に入った比丘・比丘尼と、在俗のまま仏門に帰依した優婆塞・優婆夷の総称。仏院の教法を修業し、広める。

あかあかと照れる光に一軸の僧法然も夜をめざめつ①

暁暗く本堂に坐る人ありて影ゆくごとく巡警の僧①

あかつきにつつじ花摘む少年僧「おん香草」にと答ふ浄らさ②

あかつきのかねひびくなりひと山の僧もからすも今か起くらむ②

あかつきのくら山道に起きありく加行の僧をわれ驚きつ

悪僧は何をおもひて君が家の戸をたたきしや夏の夜半に①

朝寒の鉦のそぞろによびとめてをさなき僧にもものまゐらす

朝日さす低き庭木に足袋干せる僧の生活も覗き見にけり（多く夜の歌）

朝山に僧の声音の太々と聞こゆる法堂の庭に入り来つ（真一歌集）

あたらしき石碑を前にわかし僧光顔魏々と経よますなり①

暑き日のゆふぐれ方のいとまどき浴室にのぼる僧のつらなり④

案内僧うたふがごとく説きすすむ蕪村が襖相阿弥の庭（路春）

あなかしこ天蓋の下に経誦するはたちの御僧しづ心ありや①

あはれげに僧とならではえあらざる心もてるを佐佐木の高綱⑤

雨に昏る新屋の駅に若き僧ひとりが佇ちて待ち給ひたり③

雨のなかを傘さして来つる村の僧白緒の足駄ぬぎてあがり①

あららかに梢の枯葉うち落し庭掃く僧その面がまへ②

主の僧が今朝旅立つと重々しく庫裡大門の扉が開かれぬ（新万葉集三）

青楓にはに枝さすあさの座にわかし僧形のきみとむかへり②

いくさにと召されて僧は在らざりき冬山の寺にしばらく憩ふ⑨⑩

幾人の僧に送られ墓穴の水にじむ土に安住せねばならぬ①

幾世の僧心うちふるひ登りけむこの戒壇いま冬陽ぬくめる（新萬葉集四）

山下 秀之助

野村 清

初井 しづ枝

井上 通泰

斎藤 茂吉

吉井 勇

長谷川 濤涯

宮 柊二

相沢 貫一

橘 宗利

中村 憲吉

清水 勝子

九條 武子

窪田 空穂

山田 百合子

前川 佐美雄

若山 牧水

轡田 恵眼

臼井 大翼

川田 順

池原 楢雄

佐佐木 治綱

石階を登りて帰る僧のあり若葉の寺のひるのしづけさ①

石段に下駄を鳴らして僧一人ゆふべ勤行竟へて下りゆく①

石段を掃きおろしくる僧にあふ朝ぐもりして暗き松山①

石のうへに僧の唐沓脱ぎ棄ててある傍の白木槿のはな（金瓶）

石階を登りて帰る僧のあり若葉の寺のひるのしづけさ①

板縁におとしある灰を指示して才子真弓を僧喝したり①

板唐戸風にあらびて日に曝れぬ野犬防ぐと僧告げて去る（青苔の上）

一沙弥の俊髦あらば縦しゑやし破戒偽善の僧多しとも③

いちめんに星がきらめく野中道さびしからめ僧ただひとり②

一沙弥の俊髦あらば縦しゑやし破戒偽善の僧多しとも③

一切を虚無と観じてねんごろに日々を行ぜし僧の像拜す②⑤

一山にひびきわたりて僧の撞く鐘ぞこだます一撞き毎に⑤

一山の僧寄りきたりて称へまつる盆不断会経ゆしかりける①（現代短歌大系）

一山の僧黒衣にて御開祖にけふの晩食たてまつる⑤

一山の僧尼は左に博士らは右の座にありて時を待ちおはす⑮

一山の僧侶夕餉につくらしき板の音きけば何ぞ身にしむ⑦

一山の花も仏もきざはしも僧番傘も雨の中にあり

五山の僧詩筵ここにひらきしとふすたれて小さき山裾の寺（新第一集）

古への入唐僧を忍びつる母のあはれを今にして知る③

古より幾人の僧がこの山に光をつつむ生をすぐしけむ（新萬葉集五）

言はざるを掟としたる僧のごと巴里の秋に黙すひねもす（新万葉集三）

岩山をよちゆきて遠き海を見んむかし渡海の僧ゆきし山⑦

戒にそむく末世の僧ら金閣を身せ物として奢りに肥えたり③

藤原 東川

関 得一郎

小宮 良太郎

吉井 勇

藤原 東川

岡本 大無

内山 泰一

岡本 大無

荒木 暢夫

岡本 大無

窪田 空穂

岡野 直七郎

森山 汀川

遠山 光栄

土岐 善麿

今井 邦子

北村 隆男

森 伊佐夫

四賀 光子

土田 耕平

九鬼 周造

四賀 光子

岡本 大無

今まではかかる例を知らざりき國挙るゆゑに僧も戦ふ⑨

川田 順

巖掘りて僧の住まひし跡見ればそのいにしへも恋しきうかも② （現代短歌全集）

堀内 通孝

岩組を僧は替むれど荒れはてて石路の花ところえらばず⑧

川田 順

うつくしき僧とをさなき舞姫の恋がたりなど戀しかりにし⑥

吉井 勇

うつし世のつひの別れと抱き来しみ骨をいまは僧にわたしぬ③

長沢 美津

海ちかき大伽藍に僧一人経あぐるこゑす夕日さす庭

高田 浪吉

海近き由比が浜通りを四五人の僧は軒なみに托鉢しゆく⑥

朝吹 磯子

梅白し尼姫君と云ひもせで僧語るらく大和尚の碑⑦

與謝野 晶子

うらなる野道を自転車にて来る僧に此処にはてにし人の名をいふ⑤

土屋 文明

うらわかき渡天の僧に仏陀迦耶の物語さく朝の雲かな

佐佐木 信綱

永平寺僧より聞きて山門の前の一歩うまき蕎麦食ふ①

清水 比庵

恵林寺の光れる板間冷え徹り僧は素足にてその上をゆききす①

藤森 朋夫

江の西の鐘にいたみの僧の君こなたむかずや秋に日暮るる （小唄）

與謝野 晶子

円覚寺僧になりたるわかき友今は在らざりいづち去にけむ

金子 薫園

黄檗の傑れし僧のおもかけをきのふも偲びけふおもほゆ

斎藤 茂吉

大椿のちろろ燃ゆるに僧とゐて時雨の雨はきかくともしも②

中沢 庭柯

奥地より来し僧達か庭にいれむ菩提樹の花を見ることがなく④

吉植 庄亮

音たちて降る雨さむし渡殿を案内の僧のあとよりあゆむ （早蕨）

佐藤 欣子

大君のみことをもちて僧われも慈悲の剣をうち振り行かむ （支那事変戦地）

水原 慈宏

大比叡やまくだりきて夜な夜な蕎麦食ひに来し僧のあはれさ①

田岡 雁来紅

おほようにものなしたまふ僧のへに一日をりし事はたのしき （新万葉集九）

岡田 真

お見せすべき何ものも無しと塔の扉ひらくも心重げなる僧④

山田 百合子

面向ひ難ずる僧の影を見ず寂しかれども君が往きし道①

大橋 松平

御僧等ひろらの庫裏に夕げしぬ鯛なきて山くるる時 （玉琴）

片山 広子

女かとおもふ美僧も天竜寺さして走るか峨峨の夕立④

吉井 勇

かいつまみ父の一生を言ひ終へて遺骨の瓶を僧に手わたす⑤

岡野 直七郎

怪力の僧の話題がこじれたる会議の場面をはがかにせり②

藤原 東川

香くべてひとりし坐りいます僧は吾が門訃に応へたまへり （新萬葉集九）

岡田 真

夏期休暇に僧みな去りて大寺のこのまひる時やただ静かなる①

鹿兒島 壽藏

かぎろひの夕山のうへの焼場にはひとりの僧の讀む經の声

橋本 徳寿

学僧の籠り勤むるにふさはしき寺を想はす丘地しづけく⑭

原 三郎

角帽子いただき御僧数珠さげしその珠の緒も明くる朝けや①

泉 甲二

かけひの水さらさら落ちて昼深し案内する老僧の強き足どり⑥

直塚 淳

笠をおきてうらわかき僧案内こふ浄き寺内は松蟬のこゑ⑦

佐佐木 信綱

数しらず僧たち居ますおん堂のけはひおぼえぬしら梅ちる日 （夢の華）

與謝野 晶子

風折れの傷を持つとぞ僧の言ふ老木枝重桜は照る日に聞けぬ

田谷 鋭

かそやかに呪印をむすぶ指鳴らせりほとけに向ひ僧のしづけさ④

中村 憲吉

片すみはことさら暗き御堂の中仏具浄めるる白衣の尼僧①

小宮 良太郎

かにかくに僧に縁ある誕生日小鳥の籠の糞を清めぬ⑧

岡野 直七郎

構へなき姿に語る老僧の寺の歴史はをろそかならず②

今井 よしの

からからと枯木をおとす僧ひとり林泉の小径やゆくひとしなし （雲淵）

市山 盛雄

伽藍神の目を剝く像に朝な夕な親しみをらむ堂守の僧④

山田 百合子

華麗なる法衣まとひ僧ら上り来る陽明門まへの午前九時すぎ①

磯 幾造

川遠白く見下す山に若き僧のこころ鋭くなれば来にけむ①

吉田 正俊

神主の嗣にして僧に道をとひし疎狂のわれを捨てざりき師は①

岡本 大無

汽車降りて駅の舗道に托鉢の僧をまづ見る鎌倉の朝

三隅 正行

木食の木彫の像を守りつつ此の山寺に妻と住む僧③

岡本 大無

北へ入る浅山かひに僧に逢はむ道すがら聞く春どりのこゑ②
 北倭鴉の邑なる念佛寺僧の居る時もさびしかりけむ⑨⑩
 木の間に擬宝珠の葉の光るへに僧ひとり白く行き消えにけり⑨
 君が詩のすでに禅より熟せるを喜ぶとうたひし 五山の僧あり②⑧
 膽据り元の使者を斬るまでには臨済の僧にものを問ひにき⑩
 経蔵を守る老僧この蔵の由来語れり強ひて聞かしむ(光化門)
 経にわき僧のみこゑの片明り月の連船兄こぎかへる①(みだれ髪)
 経あげに総の中山よりくる僧を待つとしもなく一日暮れたり
 きらびやかなる袈裟をまとへ僧たちの法会に疑念なしと言はなくては②
 霧雨にをぐらき御堂一人二人僧居てわれにまなこを向けつ③
 金閣寺焼きたる僧を憎みつつドラマの筋はひそかに讃ふ⑦
 草とれる僧一人居てしばらくを墓相につきて立話しせり(新萬葉集四)
 庫裡の裏うすき光に白じろと食器洗ひてゐる若き僧②
 庫裏の戸に案内を請へばズボン穿きし霜髪の僧が一人顔出す③
 元興寺の僧かあらじか木枯の月夜の道をつぶやきいゆく⑩(山と水と)
 警策をかまへたる僧あかときの庭をへだてて逆光に見ゆ(沙なきき)
 光堂に僧の説明聞く群の中に孤独の吾を意識す④
 苔の上にあしび散るなり安土山一生不犯の僧を葬る③
 ここまでは人も見に来ず古の僧のめでし花の散らくに②
 心敏く時流に乗れるもろもろの企て持てり僧若ければ⑤
 木立の影深く沈める池のべにあるじの老僧ゆるく歩ます④
 こつこつと階段を上り除夜の鐘今し撞く僧手や寒からむ③
 事となき面持をもて刑場に歩は運びしと見し僧の伝ふ①
 この厳しき臨済の僧の調伏は相模太郎の怒りに等し⑩

寺 沢 亮
 川 田 順
 中 村 憲 吉
 土 岐 善 麿
 川 田 順
 植 松 寿 樹
 與 謝 野 晶 子
 橋 本 德 寿
 藤 原 東 川
 森 山 汀 川
 松 岡 貞 総
 島 田 米 子
 久 方 寿 満 子
 佐 野 四 郎
 佐 佐 木 信 綱
 片 岡 恒 信
 金 子 不 泣
 小 杉 放 庵
 天 田 愚 庵
 植 松 寿 樹
 山 田 百 合 子
 岡 本 大 無
 川 浪 磐 根
 川 田 順

この僧が絵筆に籠めし調伏は大護摩の火にまさりたるらし⑫
 此の僧や珠数つまぐりて焼つくみ食ひ裂く口をただにみてゐる⑧
 この僧や鶴ぬすまれて梅の花咲く日おもてに山羊をつなげる(双飛燕)
 この寺に院代つとめ河内山宗俊と言はれし美男の僧思ひ出づ⑭
 この寺に住める僧等が托鉢に用ふる笠か庫裏にかけあり③
 この堂は青葉めぐらし僧一人大なる口を否めてゐたり①
 この御僧初祖の国師をかたるとき額のひかりとみに明るき⑧
 この峰に冬ごもるとふ僧一人われにもの言ふ面持しづか③
 この山に隠り果てけむ僧どちのみ墓の石は古りて竝べり①
 この山に棲む僧もすでにゐずなりてあはれ幾世の仏地すたれぬ③
 この山のおのおのの僧あつまりて勤は朝のまだ暗きより⑧
 この山の僧はつまし食経を誦して朝の飯食しにけり(新萬葉集五)
 胡麻豆腐うましとすわる夕齋に僧かしこまりわれに酒つぐ
 庫裡の奥ただに小暗く寂かなりいくたりか僧の影うごく見ゆ⑥
 これぞこの手兒奈が汲みし真間の井とみ僧はのぞく井戸のくらしを①
 これ好しと山椒魚を丸焼にやきてや食ひしわかき僧らは③
 殺さるる宿世を待ちてこの僧のまなこは寒く佛に向きけむ⑧
 こゝろも著てあはれなるかな山門の野良の作務より僧かへりけり④
 勤行につらなる僧は二百人みな黒衣にて動きつつあり⑤
 相国寺の僧の群れとや寒行の御経の声す門の辺りに③
 坂道のほけし蔵を手折りつつ僧訪ふけふのためしくもあるか②
 さきあかる桜の庭や放参の昼をひとりの僧帰り来ぬ①
 山茶花のはな見てこもる冬もよし寒念仏僧来るころにして②⑨
 差懸を脱ぎて退きゆく籠りの僧鎧衣の下にて紙衣ぞ白き⑧

川 田 順
 太 田 水 穂
 四 賀 光 子
 原 三 郎
 久 保 田 不 二 子
 宮 沢 賢 治
 太 田 水 穂
 佐 野 四 郎
 加 藤 洵 綾
 中 沢 庭 柯
 斎 藤 茂 吉
 辻 村 直
 橋 本 德 寿
 松 岡 貞 総
 豊 島 逃 水
 岡 本 大 無
 川 田 順
 中 村 憲 吉
 遠 山 光 栄
 柳 原 白 蓮
 中 沢 庭 柯
 米 川 稔
 吉 井 勇
 宮 柊 二